

日本災害復興学会 2022 年度京都大会に参加しました (2022/10/1-2)

テーマ：災害復興、被災者支援

会場：京都大学宇治キャンパス（京都府宇治市五ヶ庄）

10月1日（土）～2日（日）の2日間、日本災害復興学会の2022年度京都大会が、京都大学宇治キャンパスにて2019年度大会以来の対面形式で開催されました。災害復興学会は、災害復興学に関わる研究者や災害復興の実践者、メディア関係者らでつくる学会で、被災からの再生に取り組む人たちと手を結び、被災現場からのメッセージを大切にしています。

当研究所からは、テーマごとに設定された3分科会への参加と、1編の口頭発表を行いました。登壇した分科会と発表した研究題目は以下の通りです。

■10月1日（土）

【分科会2】9：35～12：05 「なまえ」をめぐるダイアログ

問題提起 定池祐季 助教（イオン防災環境都市創生共同研究部門）

「それぞれの“あの”とき」

ゲルスタ・ユリア 助教（災害文化アーカイブ研究分野）

「“遺構”と呼びますか？」

【分科会4】13：00～15：30 誰一人孤立させない安心して暮らせる社会づくりに向けて
～北海道胆振東部地震厚真町の事例から～

話題提供 定池祐季 助教

「厚真町における被災者支援体制の移り変わり」

【分科会5】13：00～15：30 災害復興における越境的な対話の場の可能性と課題

～みやぎボイス10年の取り組みから～

登壇者 増田聡 教授（防災社会推進分野）

ゲスト マリ・エリザベス 准教授（国際研究推進オフィス）

■10月2日（日）

【口頭発表】定池祐季 助教 「被災前後の学校防災教育の変化—北海道厚真町を例に」

※当研究所所属の教員のみ掲載



分科会1の会場の様子



分科会5の会場の様子



口頭発表の様子

文責：定池 祐季（イオン防災環境都市創生共同研究部門）
ゲルスタ・ユリア（災害文化アーカイブ研究分野）
マリ・エリザベス（国際研究推進オフィス）